

**5月号**  
No.600

ラポール[raport仏]  
相互の信頼関係、つながり、関係の意。

# ラポール

大阪労働者福祉協議会

<http://www.osakarofukukyo.or.jp/>

発行所  
一般社団法人・  
大阪労働者福祉協議会  
〒540-0031  
中央区北浜東3番14号  
電話(6943)6025番  
毎月1日発行1部20円  
発行人 平田茂徳  
編集協力・機関紙広報研究センター



▲大阪労福の機関紙「労働福祉新聞」は、401号から『ラポール』に変更し、いまも毎月1回、定期で発行されている

## えーる大阪

5月は、鳥たちが愛のさやかに美しい声を響かせるころだ。日本の野鳥は約400種類。

◆ (5月10~16日)がある

し、鳥たちが産卵しヒナを育てる時期に愛鳥週間

保護活動や巣箱をかける催しを行う。戸外が心地よい季節。双眼鏡を片手に野鳥観察に出かけるのも気分がシャキッとして、新たな発見もあるかも知れない。野鳥図鑑などもリックに入れて、その場で名前や生態を調べれば、より踏み込んだ観察も可能になる◆ 例えば

日本野鳥の会などが野鳥の生態にふれる機会は少ない。鳴き声、飛び方、運が良ければ、生まれたばかりのヒナの愛らしい姿にも出会えるハードオッチャン◆ 小さな命が懸命に生きる姿に接すること、それを育む自然空間の大切さや小さな命の尊厳を感じられる季節でもある。

00号に替えて  
600号になりました。名称『ラポール』はこの5月1日発行で節目の600号(500号)となり、これを機にこれまでの『ラポール』を遡ってみました。名称『ラポール』として初刊は1998年10月1日(401号)から始まりました。それまでは『労働福祉新聞』として400号まで発行されており、名称を変え、リニューアルされています。その初

600号に替えて

エル・おおさか10F  
心あたまる、  
ヴァイオリンとピアノの調べ  
5/18(月)  
午後0時10分  
出演・曲目  
栗本山崎  
(ヴァイオリン)  
陽子(ピアノ)  
予定 「四季」より春第一楽章/ヴィヴァルディ、G線上のアリア/パッハ、アイネクライネ・ナハトムジーク第一楽章/モーツアルトほか  
入場無料

## 機関紙『ラポール』600号に

# 近畿ろうきん

大阪地区レポート

このページでは、近畿労働金庫の大阪地区内での活動や取組みなどをご紹介します。

記事作成：近畿労働金庫大阪地区統括部

つなげよう 次世代へ！ 「近畿ろうきんの寄附講座 in 関西大学」 報告

非営利・協同セクターが担う支えあいの経済 (主催 近畿労働金庫)

2012年の国際協同組合年を契機に、近畿労働金庫では協同組合間協同の取り組みを展開しています。その活動の一環として、2014年からスタートした、関西大学商学部における近畿ろうきん寄附講座「非営利・協同セクターが担う支えあいの経済」は、本年1月22日に最終の第15回を終了しました。生協をはじめとする非営利・協同セクターの実践の方々に講義をいただき、学生はとても真面目に受講し協同組合への理解と共感が高まる結果となりました。また、受講生のレポートを読んで、大学生が協同組合の本質を理解し受け止めていることが実感でき、更に協同組合間協同の連携を強める成果の講座となりました。

### =大学生の感想 (レポートより抜粋)=

◇ 今まで、ろうきんの存在は知っていても具体的にどのような活動をしているのかはあまり知りませんでした。今日、お話を聞いて銀行と全く違うことが分かりました。

非営利企業であるため、利潤追求を最大の目的とせず、「労働組合とタッグ」を組んで労働者の生活の向上を目的としている点で人々の生活に密着した金融機関であるということが分かりました。不安な社会のなかで、ろうきんは労働者に寄りそった取り組みで、支えあう社会づくりに貢献していることが分かりました。

◇ ディーセント・ワークという言葉を初めて知り、働きがいのある人間らしい仕事という事で、世界では人間が人間らしく働けない現実に残念さを覚えました。協同組合が雇用の創出に取り組めて活動が拡がればいいなと思いました。

◇ 一人、一人は弱くても、みんなで力を合せればより良い暮らしにできるということを学ぶことができました。



金融を通じた社会貢献活動に高い関心がうかがえました。



ILO の提唱するディーセント・ワークへの学生の共感は非常に高いものでした。

